古今集老說

一

911.1
M893
k

国立国会図書館蔵書

古今和歌集巻第三 夏歌

郭公

よみ人しらず

郭公なのりをしつゝ人しれぬ思ひをしたに忍ばるゝかな

○コヤノ屋ノ池ノ中ナル屋ノ花ガ咲タワイ　郭公ハイツ来ニナノデアラウ

世ゝ経て人のいとかきあつめしはつかの人ゝ忍ばるゝかな

うづきふさらゝ梅をうゑたる

紀とし行

あやめ草ふかくしたにおひしかどあらはすべしとは思はざりしを

○今月ニナツテ梅ガ実ノアルハ、ヅヲラシイコトデヤ　コレハナニデモ見ル人ガ　アハレ

国立国会図書館
25.3.31
112440

又ゴトナ アハレヌタナト云テ詞ヲ 方ノ人ハ分テヤルベイ 已ヒト
リガサウ云ウトヒフテ ワザト去ヨリ後ニカソウヒトリ咲タデ
アラウカ 。千枝云ハ白ヒ[illegible]
かつて[illegible]

歌ちゝび

よみ人しらず

さつきまつ山郭公ちらちらぶきかけるむこそ[illegible]

ヒダ[illegible]五月六ナラ子尾 去年ノ冷リノアルコ
ヨ秋ニ[illegible]ハ方ヤヨ羽振シ去テ羽ヲ
ヨヲ出シテ ドウゾ今モナケカシ。[illegible]

伊勢

五月こばかきもゆり聲ゝ郭公すゞしきやどのこゑをきくらん

○此ヲハ五月ニウタナスバ モウ沢山ニウツテヅラシウナイデモアラウ ドウゾ

ヒダ[illegible]此歌ニナラヌウチノ声ヲ聞サタイモノヂヤ

さつきまつ花たちばなをみしかぬをかぐはこよひの神のうゝ[illegible]

○五月ニサク橘ノ花ノニホヒヲカゲバ ヒトヘカタノナジミノ人ノ袖ノ香ガサスル
ノヤウニ[illegible]

○イツモニ五月ニウタヤラ ヒゴロヒ[illegible]待タ此ヲ[illegible]ガ 今始メテサクワアル
りさきかさゝすぐ[illegible]

○ケサ始メテ聞テ ヒダエ徒ワカズニ 旅ガケデ居テ此ヲ聞ヨ 定メテ宿
ヲトルデアラウガ コヲヲ[illegible]ヲ 橘ニ宿ヲバカレカシ ヒタラ[illegible]ニケウニ
おとは山をよりくる[illegible]

きれとのつと

まねぶ山りさうてんの声バかりぎんぎん指さうふいをぢなくれる

○まねぶ山ヲケサ聞テクレバ此ものガアノハルカナ指デ アレ今始メテサ

ナクウ　まねぶ山しいつもふ彩云の声のこゑハなし。

ほゝぎすのこゑ

ほゝぎすのこゑ聞こえけバ行ちぎれくぬ　空きまれ高やまるこゑ

○此ものの始メテ鳴声ヲキクバ　オモシロウアレ足又サ　イノトナウカシヤウガオコツテ

無益ナ　こゝ人ト定テツタヘモナイ　高ゴヱチガスル　ちゝぐしでゞハ又ん。

此ものハ二の月ニ成ふ。一そはゞし。おもしろ也ども又のもの。

なゝのいそはちにて新ちなく成ら先る

此ものゝこゑ聞きれ乃郭公ハ　ちるゑバりゝそむゝ　なりりも

○此石上ノアタリハ昔奈良ノ都ヂヤガ　今ハモウ何モカモ昔ト変ツテシマウ

タニ　郭公声バかりガリ　カハラズニ昔ノトホリ　ヂヤワイ　過去ガ石上寺ハ

山ヲ張石上ふるゝと奈良ゝいつゝ公の京ゝハ石上のけり

もゝとゝ　ふるく　ふるゝいひつゝ　ゝ公の景丹波ふるゝ愛宕

山ヲも代ふゝハ京の愛宕とふる　　おなの流むかし

郭公ゝ

夜山りおくほゝぎんむゝバ物そふ夢れきう　せゝ

○アノ山デナクウヨ心ガアルナラ　いやウニ物ヒラシテ井ルワシニ　キカシテクレナイ

郭公ハ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ

アリタケハ シヲイヽデ　コチノ夜をデナケ

みふのまち

やゝやまて山影ちらしつゝひゝ程せの中にちらみゝびぬゝる

○山カル水ヤイノリ　ヨツト待テモ　コトツテナ世間　思ハ世ノ

中ニ住アグニタワイノ　ソレデ追付ワシモ山ヘコモラウト思フホドニ　サウ云テタモ

宮ん乎ハ門きちんの玉れ欣合乃ゝ

紀友別

ちゞぶれよ拾ひをもば門ちる秋深く咲ていづちゆくらゝ

○五月雨ガフリツヅイテイヨ〳〵夜モモヤヤト物思ヒヲシテ居ル門ちるガ咲テ

イクガ　夜モフケタニ　ドチヘイクヤラ　オレモ世ヤウデハドチヘナリたイキタイ

花やゝ〳〵ひそやゝ陰ど〳〵る郭ちる郭公ガ　ちるがてしらぬく

○夜デクライニヨツテドチヘモイカヌノカ　又ハ道ニヨウタノカ　郭公ガ　ちるモ

多イニ　コチノをデバカリ　ドウモるテイナヒヌヤウニチリツト門テ井ル

大江ノ里

やどりとせ〳〵ち橘もかも形くふ形ぬ門ちるこゑ〳〵あえぬ〳〵む

○宿カリテ居タ橘モ　ダカレモセヌニ　門ちるハナゼニヨソヘイデ声モセヌヤウニナツタヤラ

きのはら〳〵ゆく

あれ秋の夜をかしきれば門ちるわく一〳〵ちゝ〳〵あくるきのめ

○子ルカト思ヘバ門ちるノチイタ一声デ　ハヤモウ門ガタニナツタ　サテク短イ

夜カナ　ト句又ハ　郭公ノチタ一声デ自ガサメタガ　ハヤモウ夜ガアケル

112440

たのくるを、ものめづらしく、秋の月しるきを、海の澤へ、飯材之
のめり侍りし。　○ふる秋を、初句はのりづかの三字にて、
結句のわらべへ侍りく泊うり

みよのあづみよ

くるしきあとにんもバかぬるるあけよ成わたしやなくく心郭ーム

○日ガクレルカト思ヘバ　ハヤアケタ　夜ノ夜ヲ　アヤリ短サニ　ホリオホ
ウ思フテ　郭ニハアノヤウニナクカヤ

紀秋峯

夜ゆくり　思人ふりむ夢ゆりてくなくひらぎん

○此山ハ門ノ名ニウ思フ人ガコモツタカシラヌ　ソギヤヤラ声ヲアゲテ
ナク　飯材ろう　ものよろし

ものみ人ものゆ

ここぞの夜ゆきふるーてし郭ーてし郭ーてしぬ夢ゆりぬ

○去年ノ夜タクサニタエズナイテヨウヤ知テ居ル門ガ今又ナノアと
ハ去年ナイタと門ガ名　サウデハナイカ　声ガオシナシヨギヤカ

郭ものなくとやてよあるる　ものゆ紀

五月雨の空もとゞ侍ふ門島ものをうしろうよるーむ

○門ガ名月雨ノ空モドシドハ　ヨヒトヨヒタスラ門ガ侍ヨウウ
イト思フテアノヤウニナクーヤラ

さふーひとしをのとれのさきくべるふんーて門ガ

まつうらあとうれバまり　みり紀

ほのぼのとあけぬるすゑの山ぎはハほのぼのとしてやハをぬ

○郭公ガナクカクトマテバ　声モ聞エヌガ　ヨソデ鳴ク方ナリ　ヒコヘ

ヒバイテ聞エバヨイニ　山彦ハナゼニコヽヘヒバカサヌゾイ

山ちかくなるまつの門ちらぬ花きてよめる

つゝゆ紀

新古人ゆ山ちかくなるまつの色バかりうちつきふる雨きりのなを

○人ガ来モセウカト待テ居ル代松山ニアノヤウニ新古ガナケバ　今マデ

ハサホドニモ思ハナ[illegible]ダガ　ニハカニコチモ人ヲ待ツ心ガマサツタワイ

ちやくちやくをるとこゝろ出て居るとぎすの門ちかくなるこゑ

てよめる　拾

むかしへや今とこゝろ紀郭公時しらぬかしも門てきかむ

○門ヲヨソナモオレト同ジヤウニ　昔カ今デモ変ライカ　不ロモ多イニ代ノ

在所ヘ来タノハ昔ガ変ライヤラ　○千秋公今も八ちもとあつまりくるかな

門ちかの門ちかくなるまつのみどり

なかとぎすこゑ待とハ聞しふかなのうれよりのゆふ波ふく

○世中ヲウイ物ニ思フテ泣テクラスモノハオレデヤカ門ちかハモオレデハナシニドウイフ

デ世中ガウイト云テ泣モノアタリ（キテ　アノヤウニオレト同ジヤウニ門テクラスコトヤラ

ちちのおやとこんてよめる　伊正遍昭

ちちはゝのふごろもふかやをぬしてなのさむく

○蓮ハ世中ノ濁リニソヤヌ　譬ヘニハ経ニトイテアルガ　サウ云フ　清浄ナ心

デナゼニアノヤウニ葉ノ雫ヲ玉トアセテ人ヲバダマスコトゾイ

月のおもしろかりしよはつきがふけぬる風

ふけやゆく

あはれをまぐ宵ばかりぬるるかのいづこふ月やどるらむ

○アヽヨイ月デアウタニ　ヨノ夜ノ短イヽハヤダヨノヤテ　フケルカモ

ナシニハヤ明タモノ　コノ夜ノ短サデハ月ハ西方ノ山ヤデイキツクカハアルヤ

イガアリ暁ノ雲ノドコラニ　トヤツタコヤラ

どかりよるとこたつのむとこひふおあせらりれぎをしてい

ひちをよみてはかりしるる　みつま

ちらしぶるとそじとそふ時しらと嫌ととぶぬる春ばかりの笑

○手ノイトコナウハ　カヽトウシガニ人寝ヤス床ナツデ　大ヲノデゴザル　花カ

サイテカラハ　塵サヘカケイトサ　存ズルホド大ヲノデゴザル　折テハエシニゼヤ

スヤイ　○千秋云ハ宗匠ト句三ニシテ見ヘシ　句ヲ決分シテ見ヘシ

みる月のはごろもはなはるる

あ〜秋ゆきうふてはをひぢかるへとじきはもぬくらむ

○今晩クレテユノ夜ト来ル秋ト　イキヲガウヲノ色ノ道ハ　ソノ夜ノ

通ツテユク片一方ハ　夕昌暑ウテ　秋ノトホツテクル片一方ハ　スヾシイ風

ガフクデアラウカイ

古今和歌集巻第四を読

秋歌上

秋ごろ　よよめる　藤原敏行朝臣

あきぬ〜ぬ　ぬ　ぬ　

ヨ〳〵トシテ秋風ノフクヤウニハナツタトブ

秋風の吹ふ一日ならしゑさかゝけ天の川原に手ぬぐいはゝし

○ワシハ秋風ノフキソメタヨカラシテ毎日〳〵ヤウニ天川ノ川原ヘ出テ立テ君ヲ一タ又日ハ一日モナイ。よ秋云ばあ那どハ為るで〳〵つゝあるよりそ〳〵まゝ〳〵ゼタのちばれ多し。

ゑさかゝけ天のかゝ〳〵のゝ〳〵ちる若波ア那バうぢかつて〳〵てよ

○天川ノ渡シ守ヨ君ガコチラヘ出波リナサツタナラ デキニモ船ノ棹ヲシレヌヤウニカクシテオイテクレイ ソシタラ川波ノテ出カヘリナサルナガナイニヨワテ イツテモコチニ出逗留デアラウニ

天川ちみち波橋ふ〳〵せゞやゐ為れ〳〵ゝつゝの秋をしもまち

○天川ノ橋ニ彦星波スエカシテ時ハモ多イニ 機織姫ガ秋ヲ出待ナサル

ちゝ〳〵ていつまゝ〳〵ひゝ天ハ波の方ヘ〳〵ちゝ波をずもあ〳〵ゝむ

○一年ノアヒダ長ノ月日ヲ恋〳〵テ彦タ一度彦星ト機織ト出会ナサル夜ハコヨヒヂヤ ドウゾ天ノ川ヘ雨ガ一メン二立テ 霧ウチウテイツマデモ夜ガアケ子バヨイ

宮雨波ゐぬ多のよう〳〵ふさ〳〵ぬをのことゝ為ゐ天ゝ作せ〳〵れり為人よりりてよ〳〵ゝ〳〵ゝとのり

ゐ為ゐのゞは浅波ゐ〳〵ゐゝゐゞゐつ〳〵波ア天ゝて波ばあ寄ゞゝ〳〵ゝ波

○ハ天川ノ浅瀬ノ石ヲシラヌカニ石ボツカナウテ 水ノナカヲアチヤコチヤトシテヒヾドツテヤダ波ツテシヤイモセヌウチニサハヤ夜ガアケタワイ。よ秋云にの白孫だハ、ぬよのことろり

同ジ波ゐきされの平氏多今のゐ 蓮京おきさうゞ

ゼッテ　ヨモ　ヤウ　ヤ　ヤ　ヤ

○タナバタ祭ハサブ　今日カラシテハ又今カラ来年ノ七月七日ノ日ヲサ
イワカ〳〵トヒタスラ待テ月日ヲタテサツシヤルデアラウト思ハレル

新古〳〵

よこ人しらぬ

こゝはよもぎもなつかしき月の影ゝ　ゆかしきふるさと

○木ノ枝ノ乃ガラモツテクル月ノ影ヲ見ルバ　庚ウヱルトハチガウテスコシヅヽホカヘ
エ子バサテ〳〵シキナ物ヂヤ　色ヲ見ルバ今カラ趣躰モノゴトシキナ秋ガキタワイ
大ウ〳〵の秋くるかゝふるとぞ知てかなしきものと思ひしらぬも
○世ノ一回ノ秋ガキタカラシテ人ハヤウ六ナイサウナ　オレヒトリガサ秋ハカナ
シイ物ヂヤト思ヒシツタ　秋ハオレ独ノ秋デハナイ世ノ一回ノ秋ヂヤニ
思ひ〳〵ふるる秋〳〵もゆく〳〵ぞ　おくふかけてひきをゞりぞ悲しき

○オレニ悲シウ思ハサウタメニ来ル秋デモナイニ　虫声ヲキケバ　人ヨリ
サキヘ　マヅ一番ガケニサ　オレバカナシイ
物ゝ〳〵ふ秋ぞかなしきもみぢ〳〵うつろひゆく成ぞとゝ思へバ
○三　草木ノダン〳〵色ガカハツテ　四　変テイクノハ　五　草木ノシヲイニナルノヂヤガ
オツケサウ物ノシヲイニナルハ草ノハヒヂヤト思ヘバ　趣作ノ物ナニツケ
テモ　二　秋ハサ悲シイ　ちりよりしら〳〵梅材ゝ
ふ〳〵りぬ〳〵とこそ草紫ふけ〳〵ひとし秋〳〵なひハ家ゝまかり侍ら
○草ノ紫コフ秋ハ家デヌレルモノナレ　ワシガヒトリ子ル床ハ　草ノ紫デハ
ナケレドモ　秋ニナレバ　秋ハハヤウニ成デ家ノヤウニヌレルワイ
ちるまゝ〳〵秋のあゝ乃ち合ひ〳〵

月をとはばもとかひとど秋の夜でものもとしたぐりわりぬる

○イワハ物ニハヌハヂヤト云ハ弟ノ差別ハナシニ　イワデモ物ニヒハアル

ケレドクウチニモ　秋ノ夜ガサ　イツチ物ニヒスル頂上ヂヤワイ

かむろよりはぎふくつりて秋の夜をしむ

みるついでふとあるる　みつ孫

はぎハ山坪の内ニ　梅壺ハ壺ハ壺ハ

見ぬみこのあの分金ふる大江子星

月見もばちぐふものしてかの〜ふるもの秋は拾〜孫ど

○月ヲ見バオレハイロ〜ト想ガサ悲シイワイ　オレヒトリノ秋デハナケレド

あぐみ

おもかげ月乃うつ〜も秋ハあわりみぢもれぐやてらさまくるむ

○月ノ中ナ桂ハ山玉土ノ木ノヤウニ秋デヤトエテモ紫スルナド云ハアリソモナイモノデヤニ　ソレモヤツハリ　秋ハ紅紫スルカシテ　イツモヨリハ光リガテリ〜サツタ　お祭シタニヨツテ山ヤウニ照リ〜サルデアラウ　おすゆるし

月をとゝ〜

左京　え方

秋の夢は月のむりしあうけもバ〜ぬの山とあ〜ぬべ〜ろう

○山ヤウニ月ノ光ノアカイ秋ノ夜ハナンボ間イクラブ山デモ歩ラレウト思ハレル

人乃ものふ〜ふ〜ふ〜

○山長イ秋夜ノアケルモシラズニアノヤウニナク虫ハオレガヤウニアレモ物ガ悲シイカシラヌ

野ちとせ丈　　よみ人しらず

秋萩ちくさのつゆをしなみにてわが袖ぬらすやうらはかなき

○萩ノ葉モ色ヅイテソロ〳〵枯カケテクル時ニナツタレバ物悲ウテ夜モ子ラレヌニアノ蕃モ同シヤウニ夜ハ鳴ハソチモオレガヤウニ物ガカナシイカ

秋の夢を家にしてちゝふを かしまむ〳〵ぐふむ〳〵のうぐひすば

○ホムラゴトニ アノヤウニ虫ガ雖義ガツテナクノヲキケバ 秋ノ夜ハ寒ガサカクヘツニ来イサウナ

ちものぶるあのふやうるく鳴るけしくハまつ虫のうぐかるゝかりりる

○人ガ見ステ、ヨリツカイデ ドコモカモキツウアレテ 軒ナドヘハシノブガハエテ

見苦シウナツテ 其人ヲ恋シタフテ居ル家デハ 夜デナク松虫ノ声ガサ人ヲ待ト云名ユエカ 一入カナシウナエルワイ 夕ヤつゝのはろしし

秋のゆうぐれも鳴どひぬまの虫の声をゝる方にやどやかまはし

○此秋ノ野デ モウヨモクレニ及ブ 道モフミヨウタホドニ アノ人ヲ待ツト云名ノ 松虫ノ声ノスル方ヘイテ 宿ヲカツタモノデアラウカイ

あれのせに人まつもしをゝ虫のこゑをうるあるしいざとゝぶらむ

○此秋ノ野ニ アレ人ヲマツト云名ノ 松虫ノコエガスルワ ソチヤオレヲマツノカト云テ ドレヤ行テオミマヒヤサウ

りみぢ柴の葉てはもれるゆどぐ屋ぐふ雨をまつ虫こゑ〳〵呼〳〵む

○モミヂガ散テツモツテ 雨モフミ分テ来タ人モナイ コチノ方デ タレヲマツ

トテアノヤウニ松虫ハシキリニ鳴コトヤラ　タレモ来ル人ハアルマイニ

ものすさまじ　絵材ヨロシ

むぐらしげるあきつゝゑべよ日ハ暮ぬと思ふ山の陰ゝ

○ヒグラシガ鳴ダニツレテ日ハクレタト思フタハ　サウデハナカツタ　山ノカゲデサ

闇イデアツタワイ　よ秋ハなくべふハ並ゆて　こゝ　かゝ　なゝ　ぶ　ぽ

日ぐらしのなく山里は夕暮ハ風ゝ　ちゝ　ふゝ　ふと人もなし

○ヒグラシノナク此山里ハ　ユフグレニハ風ヨリ外ニハ一向ニ人子テクル

人モナイ　アヽサビシイコトヂヤ

ちゝ　ふゝ　ぬ　ゝ　ゝ　ゝ

○キウ早ウマア雁ハナイタイカナ　青ノ色ドル木ハモミダロクニ紅葉モセヌウチニ
春霞ウラミテいふ　かつらぎの八今ぞ咲らん秋ハ来けり人ハ
○春　霞ノ中ハカスミニ見エテイシダ乃ガ　ソノ時ノ霞ト同シヤウナ秋
ノ雲ノウヘノ方デ　アレ今ハ又ナクハ
秋を春ゝみて秋もかりがねの　なびく萩の下葉もうつろひぬらん
○夜ガ来サニ衣ヲカルト云名ノ乃ノ野ニツレテ　萩ノ下葉モウツロウタワイ
此ハあくるのそらくかさのもりの人まろがね
宮雲消きゝのたれ合の雲　蓋ハ菅根船路
秋風ハ春をとをふあ雲しくる　秋ハ山のこ風ぞ吹りける
○アレクアノまイ　海ノチウナリラ秋風ニ声ヲ高ウ帆ノヤウニアゲテ

船ノヤウニ見エテ来ルモノハ　鳴テワタル雁ヂヤワイ
かりがねの聞ぬ日ハ　みたらん
○乃ノイクウモワラナウテ　ワタルヤウニ　オレハ秋ノ夜ノウイヲノ
ねてあるぐらの月ぬ　なるとを後も秋のこれ
おゝ〻ヲオモヒヅケテ　毎夜ク泣テサアカスワイ
見ぬみこゝ紙の方合代ら　ハ岩
山里ハ秋して高ふ鳴ぬ　ひ花ちるふ先をまつて
○山里ハイツデモト云ウチニ　秋ガサ別シテツラウナニギニ見ハレルワイ　ヨルク
鹿ノナゝ声デ目ヲサマシテハ　夜ハモニ何ヤラカヤラト　雑義十ヲ見ヒヅケラレテサ
みぬ夢ぞ見ぬ

おく　ゆふもみぢ　ゆふ　如手　ゆふ　麻　麻　麻

一ヘカタノヲヅ忘レハシテセヌワイ　スレヤソコモトモ　中絶ハ後シタケレ
ド先年ロコンイニ後シタ一ハ　オワスレハナサルマイ

詠ちゝ

よみ人しらず

秋ちぎれ下葉色ぼく今ゝりやもゝとの人のつまぐそふきる

○萩ノ下葉ガソロ〳〵枯カケテキタ　アヽ後ミト夜ハ長ウナラウ　モツコレカラ
又オレガヤウナ独ズミノ者ハ子ラレヌデアラウカイ　○よ秋ちぢ二の白きそ
きれゝり

ちゝ〳〵後かと秋後やおちつゝ　ちと思よ家の秋乃上ハ

○アレハテ〳〵惜シイコナノ家ノ萩ノウヘヽ家ガキツウシゲウオイタガ
空ヲワタル雁モ　オレガヤウニカナシイコガアルカシテノ泣テイク　スレヤアノ
雁ノナク後ガオチタノカシラヌアノ萩ノ家ハ

萩の家ちりぬるもゝ　ぬるもゝとれ　ぬ人ハ枝ぬ〳〵ゝ人よ

○萩ノ家ガキラ〳〵トシテアマリ人〳〵サニ玉ニシテワナガワト思フテトツタバ
ヂキニ消タエイワソニナラ人ヤウト思フ人ハトラズニヤハリ枝ニアルマヽデ人ヨサ
ゆゝ人のゆゝ　ゆゝのハ〳〵のみゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
をりて見バおちぞしぬぎき秋萩の枝とゝ　ゆゝ　におりふゝ家

○萩ノ花ノエダモヒラ〳〵トタワムホドオイタアノ家ガキツウ〳〵ナガ
アレヲ折テ取テ人ヤウトシタナラ　サダメテ家テシヽウデサアラウ
をぎぐ家ちるゝ　ゆゝ　小ゆゝの家ゝ家ふぬまてをりひさよハぬくゝも

○今夜妹ガトコロヘイカウト思フ　野原ハ萩ノ花ガ咲テサゾ家モ涼イデ
アラウガヨイワヌレテイカウゾ　夜ガフケテノ家ハシゲクトモ　家ゝ　ゆゝ　ゆゝハ

くゞ　あのとゝ　万葉ふるし　皆ゝ　見れど　見れども　合にあり　文屋ひきやと

秋の野ふかくも　来ても　見れやはぬきかへてくもれる　系をぞ

○秋ノ野ノ　ハ　玉ヂヤカレテ　蜘ノ系スヂヘワナイテカケタ

影もなし

名ふ　名で　おもてばかりで　女子　むしれむちふきとくよかくる　恋

○女郎花ト云名ガヨサニ　チヨツト馬カラオリテ　尺タバカリ　ヂヤゾ　カナラズ

オレガ女ニオチタト人ニ云デハナイヂヨ　○十秋云その　ゝ　ゝ　べきゝ　の

きゝらしく　おふ　は　ハ　ふる　よ　り　て　ら

多くゝゝり　おもてゆ　ハ　て　る　と　ま　り　て　ふ　を　み　る　て

をれもてよハあしび　ゆ　ま　ら　ば　い　ふ　を　み　る　て

ゆ　ま　ら　ば　い　ふ　を　と　る　て

信正遍照

○アノ女子花ヲバ　イタヅラナ女ヂヤトヒフテオレハヨソニ人テサ　ヒリ

ヒテイシコヽハ男山ナレバ　男ノ中ニヽヒツテ居ル女ヂヤトヒフニヨツテサ

見ぬ　みぬ　の　合　ぬ　の　とゝ　ゆきの　ぬ　た

秋の野ふやうりをもて　女ら　名ばむつまじ　ら　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

○トヽルナラ　秋ノ野ニトヽルガヨイ　女子ヒガアツテ　女ト云名ガムツマジ　ヨ

ヨソデ寝ルヤウデハナイワサテ　二の白れてり　をつくべし　信秋

五

ゆ　ま　ら　ば　い　ふ　と　き　え　ば　ま　ら　し

○まき後二

[illegible]

[illegible]

○女ラシモノオホクアル野ニトヤフタナラワケナイ〳〵ニアダナ名ガタクウ

カレラヌ　女ヲアト云ハ名バカリデコフアレ　ホンノ女デモナイニ

朱雀院のをこ[illegible]

なのおもしろきこと

[illegible]

○ヲミナメシガ秋ノ花ノ風ニナビクガ　タヒニヨセテアノヤウニナビクヤラ

むむ[illegible]

[illegible]

○天ノ川コリタナバタノ秋デナウテハアハヌ事ナレ　アノ女ノ花ハ天ノ川ノカハラニハエテアルデモナイニ　秋デナウテハアフ〳〵ガナリガタイ女ヂヤ

[illegible]ゆき

○誰ガ飽タトイフ秋デモナイニ　女郎花ハドウシタ〳〵ゾ　アノヤウニ色ニ出テ恨ンデ　ヤダ早イニウツロウノハ

みちの

○アレ妻ヲコヒシタウ麻ガサアレナクハ　淋ナヤツチヤ　女郎花ヲ己ガカヨ

ウヤノ花ヂヤトハ知ラヌカイ　女ニ花トイヘバ女ヂヤニ　ナゼアハヌゾイ

をみなへし　ゆくとてらす秋風に　なびくよはなを　ねをしとぞ思ふ

○女ニ花ヲ吹テトホツテクル風ハ　目ニハソレトコエヌケレド　テウド女ニ逢テキタ

男ノウワリガスルヤウデ　女ニ花ヲ吹テキタトニヲガ香デサヨウシルワイ

人ノ人ニ　ものやらし　花をみるとしの秋　方にのこるらむ

○女ニ花ハ　女ヘヲハツカシガツテカクレヤウニ　方ニカクレテバツカリアルガドウ

ニヲ一デアノヤウニ　方ニカクレルヤラ　アレモ人ノ人ニルノガメイワクナカイ

むとりのこゑ　むつまじ　ハ女ノ花ヲ　ふうとむ　花どふうを　てんまーを

○女ニ花ヨ　ハヤ系ニ　ヤウニ　ヒトリ　ヒトリ　ヒトリ　ヒトリ　ヒトリ　バツカリ居ヤウ

ヨリハオレガヤド　ヘウツシテ植テ　人ハヤシテヤラウモノヲ　俳諧ふうを

ぐふべーあすをうをいし。よ秋ふ　ふりはーあーよ　ふーをーを

女の男ふ　ふてもべーてぐーりーりーにーりーり

ものへまかりきる小人の家よをみるべーしうゑ　ゑり

りゑをとてよゑゑ

兼覧王

女ノ花ハ　ふりはるやどふ　ふりはるやどふ　ふりはるやどふ

ゆふいうでいうへ〜むとみうへ〜あやうくゆべふ神みまし〜あをと

○アヤのナ色〜ノ花ヲハライツハイ エんズニ ナゼニハヤウニカヘルヤラ 女ドモ

ノ多クアルサデ コヨヒハ子ヤウデアツタモノヲ 女ト云名ナレバヨイト云リ野ギヤニ

元天みこなめの今宗ふる 少しゆきの形代

なふ人〜うきてぬぎかまし 友ぢうあつる秋ちふゆべをふれとは

○ハフヂバカマハ〜カタ伝人ノ着テヌキカケテオイタ袴ゾ 毎年〜秋ニナ

レハ代サヘヨヲニホハス 今ニハヤウニニホウハナンデモコレハナニタイテイノ人ノ袴

デハアルマイ ヨクく〜キく〜ノ人ノ袴デ 香ガヨウシメテアルユエデアラウ

友袴とよみて人よ〜ぎ〜ふる 花〜ゆき

やどりせし人のかゝしゝ袖ぢバ名ゆこと〜れば花ふるあやひ代〜

ナサツタ袴デゴザルガ今ニウスレガタイ香ガニホフテサ〜ぎれノタヲハナツカ〜ウ存ズル

袖ぢだかすれバとれる そやん

ぬしいらぬのこゝとあわへも秋のやふしぬがぬきうをし友ぢうあるぞも

○ハフヂバ袴ハ 代秋のサ人 タレガヌイデ掛テオイタ袴ゾデアル 主

ノシレマ香ガサニホウテアル

歌ちゝび

今〜ちわハう花てぶふえ〜ど花ちゝ花ほふ出る秋ハわび〜ちりうと

○スキハドコニモ多クサンニアル物ヂヤガ ソレヤドウモセウコトガナイヂヤガ

今カラセメテハコチノ方ヲニナリトモ植テハ人ヌヤウニセウゾ アノヤウニ荒ノ

穂ガデ、秋ノケシキガアエバ キツウ物ガナレウテナニキナワイ

ぶふぱぷりとものこと。 俳諧ぶぶのもなれら紀行など

寛永清き元禄高の名合寄 左京ひとやる

秋のみち草の白りくら花もてきほふ出てきもく神とうあ也

○スキノホノ風デナビクノハ テウド人ガ色ニデ、恋シイ人ヲ下子ク袖ノ

ヤウニアエルガ スキノ穂ハ秋のセノ想斜ノ草ノ袖カシラヌ いろにて

秋と神とハさび何をくくものこと。○千秋云ふやうに通りうる ふの格に澤山そんなべし

ものもやうハもとも思ひきりぐもを秋く多をのやきくるでと

○キリぐスガ鳴テ面白イヲカゲニアるの二咲テアルアノナデシコト云児ヲ

母親ヤ乳母ナドモ打ソロウテトモぐニテウアイスルヤウニ タレニモカレニモ

アエセテ賞翫ササタイモノヂヤニ タツタ人ノ手デソダテル児ノヤウニ オレ

バツカリガアヽヨイ児ヤト云テ独リアエハヤサウコカヤ アツタラ花ヲ

飾林後の流ちゃ一ちゃ

新ちゃべ

みどり形るもの草とぞ云ハエし秋を色ゝ花ちぞ咲ける

○春晩夕時ニハ タヾ皆同シ青イ一ツノ草ヂヤトバツカリ思フタガ サウデ

ハナイ 秋ニナツテ今アエバ コレヂヤウニイロくノサマ〻ナ花ヂヤワイ

もくさの花乃紅もとく秋のみふひとをむ人るやゞ紅そそ

○ソウ多イ花ノ咲クヲ紐トクト云ヂヤガ ハヤウニイロくサヽぐノ草ノ

花ノ常紐トイテ ミダレテアル面白イ秋ノ世デ ドレヤコチモアノ花ヲ賞翫シテトモ〳〵ニ ミダレテアハウヲツクサウ 人ガヱタナラ アレハ

五

ニア何ヲチヤトフレシニ思ウデアラウガユルセ〳〵

月ヲ見テ居ルモハヤ〳〵全ク秋ヲ知ヌ ふぬとてのちはうつろひぬとと

○キルモノヲバ 月ヲ見ノ花デスラウ エイ色ナ物ヂヤ シタガ外ヘ色ノウツリヤスイ物ヂヤヨツテ 秋ノ空ニタヘタラ 色ガ外ノ物ヘウツリテシヘハウモシレヌガ エイワサ 後ニハウツヽタトヱテモ

仁和のみかどみこたちおはしまして 世ちかくなりぬるを思ふ親王たちの

ぜんとしておはしまして はしらせ給ふ 遍昭が母の御ふやどりにて

きこしめすに 秋の野にふかくいりにしかな

ふかくいりにしかな

遍昭

星ハあもとて人をぬりたしなどうれやなにしも秋のやらむ

○いヤドノ義ハ 里ハアレヽシタ里ヘ 住デヲリヽスル者ハ老人ヽ 彼ヽヽスレバ彼ヽヽヽ

吹のこふ秋の草木はさらぬ紅でうべ山風を嵐といふ草

○フクトソノマヽ秋ノ草ヤ木ガアノヤウニシヲレレバ　ムナヅ（うぶ）ヤ　ソレデ山ノ風ヲアラシトハ云デアラウ　○よ秋云ふ嵐しらぬ名ハばうのごく（如）とあるそこ　て、金荒ゥ又あるき風こゝてをゥ風とそこゝ

○草デモ木デモ　此秋ト云時ニガアツテ　皆色ガカハツテ　枯テシマウケレドモ　アノ海ノ浪ノ花（そで）バッカリガ　イツデモ同シヤウニ咲テ　秋ト云ヲガナイワイ

秋の夕合しげる時ふかるきれよりもちみちをぬるときはの山ちをぬくほのまつ少も秋をきくこゝろむ

○秋デモ木葉ノ色ノカハルト云ヲモナウテ常住同シヲヲイヤト云常磐山デハ時ニガイツヂヤカレヒマイガ　秋ヂヤト云ヲハ風ノ吹ツまバカリデヨウニサテタテルデアラウカ

秋ごろの

夕人ちらぬ

夕ちかのちて居ぞ分れかるかと思ふあしとれ原ハもみぢぬるむ

○夕ガ立テアレ居ガサナノワ　コレデハモウ片岡ノ雄鹿ハ　紅葉シタデアラウ

かみな月ちぐもいやまじ時ふるとうつろふ神ちはのもと

○木葉ヲソメル十月ノ時雨モマダフラヌノニ　神ナヒノ杜ハハヤ黒テチヤント色ガ染ツタ

ちりやぶる神ちはの山乃もみぢ葉ハ時雨ぞ降ぬ時ぞ

○心アカリヤスイ人ニ見ヒヲカケルハアハウナヲヂヤガ　ハ神ナミ山ノ紅葉モ

ソンナモノヂヤ　見ヒハカケマイゾ　ホドナウチツテシマウモノヲ

夕紅葉時雨の後綾錦のまゝ不物の本方分とみのうふ

さをしかの秋のもみぢとあらうきそ鳴ふ時雨をのこ

どりのよみうつしでふしあるふしからちおむ

同じえだをこのくれうつ行ふかをもの秋のくれ

○同じ一本ノ木ノ枝ヂヤニ西ノ方ヘサシタ枝ガトリ分テアノヤウニ多ノカハツタヲ見ハナルホド西ガサ　秋ノハジメデヤロイノ

いづ山よりできるゆふ時おくれは山乃紅葉成るく

ゆふ

秋風の吹かぜ日よりおとる山みぢ

○秋ノ立ソメタ日カラシテ風ノ寒モカハツテキタガ今日見レハ山ノ木共モソロソロ色ガツイテキタワイ　○よ秋云ヒ山澤ノ風のまもりくハりうるこをとゝとゝ世うるものをり。

見ぬみちの秋ぢ合ふもあるゆふの秋風

白雲の色ハ云ふ物を山ふかみて秋乃このくれぢにてそむるそ

○雲ノ色ハ皆日ニツノ白イ色ヂヤニ　ドウシテ秋ノ木ノ葉ヲアノヤウニイロイロノ色ニソメルヂヤラ　○よ秋云ひとうをれをハりのをのこをて。

ふるうりうるものをしるうり。

壬生忠岑

秋の夜ハ雲をバ雲とおきわぐ月乃波やゆくへをそむる

○秋ノ夜ノ雲ヲバ白イ雲デソノマヽデオイテ　別ニ月ノナリ波デアノゆくノ雲ヲバソメルカシラヌ

みぎぐ

秋の雲いろ〳〵おほふおもばこそ空のくれぬよ時雨ふるめ

○秋ノ雲ハタヾ白イ物ヂヤトバカリ思フテ居ルガサウデハナイサウナ色〳〵ヂガウ

テオクサウナソレデコソ 染ツタ山ノ木紫ガアノヤツニサマ〳〵ノ色デアラウ

めづる山乃やとり光とよめる つゝゆきさ

ちゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

やまやまはもみぢまかりきぬ山よ春はさて
ふしぶしぶしてよめる　きはとしのこと
あがこめのふるきぬもぬぎ秋春のうれは山ぶしぶしてしむ
○此サホ山ノ紅葉ハ多ガ多メニドノヤウニ大切ニスル錦デ　アノヤウニ春ガカ
クシテ　人ニモアンセヌヽヤラ　セツカクノ紅葉ヲアンヤウト足フテキタニ
見ヌみこれもの合れ　よみ人しらず
秋ぎりハ春さいはるらを佐保山のたゝの紅葉よそふてとゝむ
○春ハドウヅケサハ立テクレルナイ　アノサホ山ノ柞ノ紅葉ヲヨリカラナリモアンヤウニ
秋のうちとしらめる　坂上ちもはる
ひぐれ山のくゝその色ハうちを紅ども秋ハ深くもあるかな

○フウタイ柞ノオトヽ云モノハナニボ染テモ色ノアヽリ濃ウハナラヌ物ナレバ
ハヽ山サホ山ノ柞モ色ハウスウテ　深ウハナイケレモ　アノケシキヲアンレバ
サテくヽア秋ハイカウ深ウナツタヽカナ
人のをんざふ墨てむらびつきくゝ色ぬる
いろくゝはるをひとの知見
○カウシテ　ウヱテサヘオイダナラバ　コレカラ後　秋ト云時ガナイコトガアツタラハヨウ
サカヌヽモアラウカシラヌガ　秋ト云時ガサヘアラバ咲ヌトヽヽハアルマイ　ト今年
ノ花コソナウテシヽハウケレ　根ヽデガ枯ウカ根ハカレハセ子バ　イツヽデモ
毎年秋ハ咲デアラウハサテ

宮中ノ御きくの花をよませたまふ

とし行の歌

むさかりけるものゝ人へまてしらぬ菓ハ戸ゝ早とぞわやまれりる

○カヤウニ禁中デ人ヲスル菊ノ花ハ雲ノウヘデゴザリマスニヨツテ天ノ星チヤトサトリチガヘシレマスルワイ

はるハはぐ風上ゆゝさまぞきるはふ色をしあ

ぎもてはうまうしなん

光孝のみかどの御歌より秋　紀友則

ちぐさのぎくをりてかざゝむ菊はなおいとぬ秋の色しかりべく

○菓ノ名ハ餅ヲ長ウスル物ヂヤトキケバイツモデモ年ノヨラヌ秋ヲ久

シウまち子テ長生ヲスルヤウニ　此菓ノ花ヲ秀モノマヽデ折テ頭ヘサヽウ

宮中ハきさいの宮　大江ノ匡房

ちぐさ咲ける花ぞ見ふるし菊うつろふ秋ふあるかとやえんし

○きウヒタハ二八早ウ花ノサク秋ニシタイトマチドホニ見フタ菓ガマア盛リガヒテモウ色ノカハツテシマウ時ニナツテ式ヤウニナツタノヲ見ヤウトハ思フタカイ　○よ秋云ハ白ヤサドハやゝものまにてうつろふ秋よあるゝ山ハ黒ハうしりものをしろくも

ちぐさ咲ける花ぞ見ふるし菊うつろふ

乃なう色ちりぬふ人へうるきる白あきはげの淡れる菓

菓捨ちりぬをとゝ考る　ちぐさ咲ける歌

秋風の吹とはあてるきぐくハ花ゝ咲ぬ、の淡のようするか

○秋風ノフク吹上ノ浜ニアル　アノ白イ菊ノ花ハ　花カ　サウデハナ
イカ　浪ノヨセルノカ　風ガフクナレバ浪ノヨセルヤウニモ見エルガ

仙家ノ業成ラズシテ人ノいまだ死ざるかとある

素性法師

ぬきてほすて山路のきくなれば露のまがいつゝよ年経ぬるかも

○左面カ（ツテ見タレバモハヤ千年モ過タヤウスヂヤガ　オレハ仙人ノス
ミカ（イクトテ　山路ノ業ヲ心ノ中ヲ分テイテ其業ノ家ニキル物ノヌレタ
ヲ千ス間ホドノチツトノマデアツタニ　イツノマニマニアヲ千年モタツタヤラ
きくなれば露のかゝるまでに人の人まてるかゝ成よる

ことのり

花ノ下ニ人ヲまちてきくを見ればさきをはらさぬ人の神ゝしのぶやまれる

○夜ノ業ヲ見ルニ　イククルル人ヲ待テ居ルトキニハ　ソノ白イ花ガ　ソノ
クル人ノ白イ衣ノ袖ノヤウニ見エテ　ヒタモノ　ヲヂヤカト　トリチガヘラルヽワイ

大澤の池の辺ふ菊くるをとゝ見る

一本ヤ　ヒラ　きくの花おもさハの池の底ふかもられうゝ色りを

○タツタ一本ヂヤトモフタ業ヲヂヤニ　アレハ池ノ底ニモアルワ　アレハ流ガ
池ノ底ヘモウエタヤラ　イヤ〳〵ヨウアレバ新ノウツリタノヂヤ

いま秋ぞこゝまでやもの影ハみるうれそなのうとん

世中はそうれきゝ成見ひろれをりにきくのも

とゝ見てよる

ほゝ

秋のきくゆふぐれとはうたれじてむなしきえぬあだ花

○菓ノ花ヲ カウ咲テアルウチハ菓ルマデハ カザシテアスバウゾ アノ花ヨリ
サキハ死ナウモシレヌあだ花ヂヤモノヲ アソバイデハ

白菓花をよめる 凡河内つね

ふるあてふをしばやをしめし初菓のおきそどはちるもきくの花

○アノヤウニ初菓ガオイテ 花ヤラ菓ヤラシレヌヤウニガウテ見エル 白イ菓ノ
花ハ タイガイスイリヤウデ ヨラバ折モセウガ ナカ〳〵見分ラルヽデハナイ

花ゆみこの秋ら合のうち よみ人しらず

いろうつる秋のきくをば一とせふ時〳〵しらぬ花〳〵ぞ

○ハジメノホド ハトシト 格別ニ色ノカハツタアノ菓ノ花ハ 見ヨウトハ見エヌ

一年ノ内ニ二度サイタ花ヂヤトヲ思ハル、 鉢植ト白ト遠ヲ出ヲ

仁和ちふ菓花ぞめしをりける時ふるとくなれておりける 平ノ時ヶ

らもりれバちくてなりける 平ノ時ヶ

秋とおきてはくてなりける花きくはなをうつしに色のまされで

○キクノ花ハ ウツロイヤステカラ 又カヤウニ始ヨリ色ガヤサリヤスレバ 秋ノトサ
カリバカリデハゴザリヤセヌ 秋ガスギテカラ 又マイチド 盛リノ時菓ガサゴザ
リヤス 恐レナガラ陛下ノ御ヲモヤ菊ノ花ノトホリトなジなりヤス

人ぞ知おりきくきくの花をつゝしうえしうつ

ゝ色とうえる 凡河内

咲そめしやどゝうつもバ菓のゝ色をさへうつろひぬれ

○此業ノ花ハ始メニ咲タヤド、ヤドガ替ツテウツタレバ西ノウツタバ
カリカ花ノ色ニデガサ アノヤウニウツクシテカハツタワイ

新しくれぬ　よみ人しらず

佐保山のくもの紅葉ちりぬべみよるさへてらす月の光

○アノサホ山ノ柞ノ木ノモミヂガオツ、ケ夜ウヤウニ又エルニヨツテ 昼バカリ
デナシニ夜モ人ニ見ヨトシテアノヤウニ月ガアカイ

みやづかへ久しくなりぬ山里はこりぬ時なりもみぢしにけり　藤原関雄

おく山乃松のそらにのみぢ葉ぬべしてるの光の時なくて

○山ヤウニそびイ岩ノ巣地ノヤウニ立デアル陰ニアル奥山ノ紅葉ハ日ノ光ヲ
受ル時モナシニ夜デシ ウヂアラウト思ハレルガ アヽクチヲシイオレガ身ノ
ウヘモテウド此紅葉トハジコヂヤ

題しらず　よみ人しらず

立田川もみぢ葉流れたるかぐ紅ゐ深くば後中やくくれなゐ

○立田川ハ紅葉ガチリミダレテ今京中流レルヤウスニ思ハレル ソレデハ
今後ツタナラバ アツタラ後ガ三ツ中カラキレルデアラウカイ

ひさかたの人なくのみ山のもみぢ葉のちるくるむよん

○此川ニ紅葉カナガレド 水ナビノ底ノ山ニ時雨ガシテ瓜ガフクサウナ
時雨ニ濡るゝ紅葉ぞ流れてはかくとせるかもの

又ハあをくもみぢ紫ノ流る　此ノ不注人丸所

ゑ〜〜くハ〜〜〜と志のだむもみぢ紫を吹きまき散て山あらしの風

○ハ紫ハモウ変テシマウタガ今カラモ変タ紅紫ノ色ニナル時ハ此歌紫ヲナリ所ニ見テ変セウニソノヤウニヨク吹チラシテヤルナイ　コレ山オロシノ風ヨ

○ふ秋云ふもみぢ紫ハちり志きくる歌紫をソノ通ニ見テ志ばし紫とえんてもんぢ。ぬり。あるれく。

秋風ふあらくてちりぬるもみぢむ紫ゆく〜きぬ者ぞかるる〜き

○秋風ニヨコタヘズニ変ルアノ紅紫ノアチヤコチヤ変テイテドコヘイク方ノ定ヤラヌヤウニオレガ身モ切ノドウナルヤラシレヌガウカナシイ

秋ちきぬ紅紫ハ色どたぬり志きぬを踏しらてとも人を恨し

○物ガナシイ時ニハ紅紫ハ色ヘチウテシマウソノ変リシイタ色

紫ヲフミ分テクレモ石子テクル人ハナシ　サテモ〜〜イラモカモソロウテサビシイ　三つのぞ〜ふ〜をとく〜べし。　餞材ふ物白を秋乃

蓋ハ来ぬ〜〜〜ハ志ひでく。　秋〜ハ物ぐる〜き時ぞ〜〜〜

ことふいをる。伊あわし。

ぬ〜〜ハ来て志ち〜ゆやとそむもみぢ紫の志ぐれ〜〜て色〜〜ぞ〜〜

○アノ志ヘハイルヒハアノヤウニ紅紫ガチリシイテ　タレモ人ノシラヌヤウニフミワケテコヌヤウニト　陰シテアルヒヂヤニ　サウトハナガラ　ソレヲフミ分テ今サラハ来ベキカ　サウトハナガラフミ分テハ来ベハウヤウハナイ

秋の月ふべさやふて〜せるを志おつる　ぬ紫乃ゝず紅ハよしかな

○月ノアノヤウニ山ヲサヤカニテラスハ　オチル紅紫ノ数ハイクツヂヤトニ〜

ヲトクト足ヨトテノ〻カヤ

吹乱れ散らくふ〻つゝハ紅葉のちもバかりなり

○風ニハ色ハナイモノヂヤニ　アノヤウニ風ノフク色ガ　イロクニヲエルハ　ドウシタ〻カト足ヘバ　紅葉ノチルユヱヂヤワイ

せきを

春の山て霞のぬきゝとゝろかしし山の秋はおもバかりなる

○山ノ紅葉ハ春ヤ霞ニ染ツテソシテ錦ノヤウニナルヂヤ　スレヤ霞トヽガ秋ノハタヲ織ル堅ト横トノ糸ノヤウナ　物ヂヤガ　ソノ春ト霞トノタテヨコノ糸ガサ弱イサウナ　ソレユヱカシテ　アノ紅葉ノ秋ガ織ルカト足ヘバハヤ　一方カラ破レルヤウニチリ〻ス

うゝんゝは本のうゝげふゝぞてとみりる

秋山遍照

○ナニヒフナ身ハ　ナニカラ何ニデ雖浪ナモノカナ　コレハタノモシイヨイ例ヂヤト足フテ　アンタ〻ヒ　立ヨル木ノ本ハヨニモ早ウ紅葉ガ変テ〻ウテ　ホムベキカゲモナクナウテ〻ウタワイ　又ナニヒフナ者ノ立ヨル木ノ本ハ　トリワケテ早ウ

二條后の春の日乃みやゝ所しナきる所ハ屋風

ふ為ゝと門ふ為紅葉ハ〻れ〻るかゝ〻ゝ〻ゝ

りゝを散ゝとよりる　ゝゝん

もみぢ葉の流もてとゝ為みるゝふゝきゝるの浦き浪やゝゝむ

○山立田川ノ紅葉ガヅイト下ヘナガレテイテトマル湊ノアタリニハ マツカ
イナ色ノヨイ浪ガタツデアラウカ

なりぬべしけふ
ちはやぶる神代もきかず立田川からくれなゐに水くくるとは

○山立田川ヘシゲウ紅葉ノ流ルトコロヲ見ルトバトニト紅藤ノコトヲ見エルワイ サテ〳〵奇妙ナカナ 神代ニハサテ〳〵キメウナコトモガアツタチヤガ 山ヤウニ川ノ水ヲ紅ノクヽリゾメニシタトエヘハ 非代ニモ イツカウキカヌコトチヤ

○よ秋ハ云々ちはやぶる神代もきかず紅葉しぼりとは今ハ云々

見ぬ人のこの秋ばかりの山ぶかの 中〳〵ゆゑの紅葉

とゞめをく〳〵かくもちるべき山ぶかの木のもとにとまるこゝろ

○此クラブ山ノ木ドモノコノハノ玉中チリ〻カウノデ 今トホツテ来タ方モドチカラキタヤラシヲヌ

神なびのみむろの山の秋ゆけば錦きるてちりそめにけり

○今秋ノコロ山神ナビノミムロノ山ヲトホレバ 紅葉ガチリカヽルデ 錦ヲ着ルコヽロモチガサスルワイ

（今秋云々ちりの俗ちるきくハ俗俗ちるハ山何ちるきくちるきくべ）

少山ちりもみぢをとむらくもまがきりの花ぞちりける

ちるぬくもかくて安めるおく山乃あ紅葉ハるけふきかりるを

○ナンデモセシノナイコヲバ夜ノ物ト云ヒヤガ 人ルヘモナシニ山ヤウニムダニ散テシ

一ウタ奥山ノ紅葉ハ ナレボエンデ淋ノヤウデモ ヒトヨ二夜ノ淋ヂヤワイ

秋のうち　かつみとれる

立田姫ハ神板ヂヤガソレデモ又ハ手向ナサル神板ガアルヤラコウ

○立田姫ハ神板ヂヤガソレデモ又ハ手向ナサル神板ガアルヤラコウ

ハ自身ノ色深ナサウタ紅葉ガ アレトシテ向ノ麻ヲ チラスヤウニチリマス

少せしいとゝ色ふかくなりにけるもみぢをみてし

ちるかな

秋の山ハ紅葉成ぬるゝ　あむくるまバ　そもこそ　ぬれ　ぬるゝ

○秋ノ山デハ アレアノトホリニ紅葉ノ チルヤウスガ テウド旅人ノ衣クダリ神〻ヘ麻ヲ

ヲ チラシテ手向ナユクヤウニアエルニヨウテ 佳デ居ルコトデガサドウヤラ旅ノコヽチガスル

神なびの山をとゝそしゝ川を深り者ハ紅

乃紅れ　きゝ　ふりやぬ

神なびの山をとゝそしゝ川を深り者ハ紅

乃紅れ　きゝ　ふりやぬ

○コヽモ今神ナビ山ヲ ヨテキテ立田川ヲ渡ルガ 書テユク秋モソノトホリデ

神ゴザル神ナビ山ノ紅葉ハモウ散テノコハヒテ西ヘユケバアレアノヤウニ紅葉ノ麻ヲ

ヲバ立田川ヘサダケテ入 神なび山ハ山城国乙訓郡 立田川ハ大和国 津

ホ結上郡ヘとのふ山城の国ノ別小考有 ○ホ結ハ師の説考ホ結ハの初 ハ菜をよりまとめしたもの

宮ぢかきいの山ハ今の世 後京おき風

宮ぢかきいの山ハ今の世 後京おき風

○浪ノウヘヽ木葉ノモミテウイテアルノハ 猟師ノ流シタ船デハナイカトサウエル

立田川のほとりにてよめる　坂上是則

もみぢ葉は流れてふかばなかれなむ　立田川の秋とだにみん

○本来ノ青イノハ色ノカハルテ秋ガシルシガ　水ノ青イノハ色ノカハラヌ物ナレバ秋ガシルヌ

ニ　今立田川ノ水ヲ見レバ　紅葉ガ流レテ秋ヂヤト云コガシレタ　モシ此ヤウニ紅葉ノ

流レテガナイナラバ　水ノ秋ヲバドウシテ誰ガシラウゾ　シルモノハアルマイ

ちはやぶる　神代もきかず　竜田川　からくれなゐに　水くくるとは

○出川ヘアレ風ガモテキテ　ガラミヲカケタトヽエルノハ　手ガモセズニトヽツテアル

紅葉ヂヤワイ　アレ風ガフクデアリ　シゲウ紅葉ガ散テセキカケ　流レテクルニ

ヨウテ　サラ〳〵トトヽヘ　工流レテハイカズニアノトホリニシカラミノヤウニヨドムヂヤ

此のとりにて　紅葉のちるをよめる　みつね

風ゆゑ　思ひもかけぬ　もみぢ葉の　ちりてはかなき　世にぞあるかな

○風ガフケバ　チトヅヽソロ〳〵　紅葉ガナリカケタカ　ハ沈ノ水ガキヨサニ　マダチラ

ズニ枝ニアル紅葉ノ　新マデガリコヘヨウウツヽテ　ハヤ大分散々ヤウニ見エル

亭子院の御屏風のために　紀貫之

もみぢ葉の　ながれてとまる　みなとには　くれなゐ深く　なみぞたちける

オヨウセナサレ

よ田を　ながしいりもバつゝ　風ぞ吹く　あちこちにゐりこそを　ひしりみちぐ　あゝぬるとも　ちはやぶる　はまさゝじ

○シバラク立トヽツテアノ紅葉ヲ見テカラ　此川ハ波ラウ　雨ガフレバ　ムガ　ヽシテ

川ガ波ラレヌヂヤガ　紅葉ハ　ヨノヤウニナンボフツタトテモ　水ハヤシハスマイホドニ

見ぬみこの頃ものの今のうつゝあづみ

山田もゝ秋のかりわふあくゝ寄ていなあやをもの陰なりきゝと

○秋ノコロ山ノ田ノ番ヲスルトキ小屋ヘトヤウニ寄ノオイタハ 稲員ガ

トゴロハ寄テシゲウ呼ケバソノナミダヂヤワイコレハ

新しらべ

ほのゝと出ぬ山田をとりふくゝぬぐれいなどの寄ふぬもぬ日ハなし

○ミダ穂モデヌ山ノ田ヲトウカラ番ヲスルトテ毎日ゝ稲ノ葉ノ寄デキル

モノヽヌレヌヨト云ハナイ 百姓ト云者ハアヽナンギナモノヂヤ トヤウナ

ヤウスヲ上ニハ出ぬ和アルヽイガ 教云ハいやゝ云者のきりのゝ

○よ秋云ふこと君ゝる人ゝおゝふ涙くゝとゝゝし嘆ひまゝべきゝゝん下とゝてゝきき人乃

ゝんゝゝへゝゝも和りゝり又ゝきゝ人の下ゝ下ぬゝゝゝるゝもゝよゝゝゝゝゝすゝきハゝゝ

かゝゝゝ田ふ和ゝゝる云つゝゝのわふ出ぬ寄成今ゝゝふひきゝてぬゝゝ

○苅テヽウタ田ヘ又アトヘハ寄タヒヲチノ穂ノデヌハ 時ゝモモウ秋ガハテタヽ

世中ヲモウアキハテタヽバ今サラ穂ヲダサウハナイトヨデノカイ。よ秋云ふ今ゝらもゝと云ハ三の句ハ上ゝ句ヒて云ふ

小山ゝ傳ふ遍昭ゝ和けづゝふゆかもり年ふ小

よゝゝる

ゝゝ寄ゝ神ふゝ沢いゝゝて出るゝ秋ハ限ゝ見む人のゝゝ先

○いね寄ヲバ袖ヘコキオロシテ入ヽテ持テ山ヲ出テ イニデヽヤゲニセウ 人ハ定

メテ秋ハモウハヤヽイヂヤトヨフテ居ヽデアラウガサウヨフテ居ル人ノタメニサ

完平清時ゝ和ゝ沢ゝ見てゝゝ和ゝ和ゝせゝゝれゝゝゝバ

立田ゝもみぢ深かゝるとゝゝゝゝゝゝゝゝきてゝゝのれるゝ

心をとゝめ　おきこのぜ

みやまとゝ　ゝ　ゝ　

古今和歌集卷第六 去後

冬歌

[illegible]

よしの人丸

[illegible]川[illegible]ノ[illegible]カ[illegible]カミヲ月ノ[illegible]花ノ面ヲ[illegible]ヌキ[illegible]テ

○立田川ハ紅葉ノ表テ流ルトコロヲ人ハ四面ノ糸ノヤウナヨウ

堅横ノ糸ニシテ機ハカケテ織ルト人エル

冬ノ[illegible]トテ[illegible]ヨメル　原宗于朝臣

山里ハ冬ゾサビシサマサリケル人モカレヌト思ヘバ

○山里ハイツデモサビシイガ冬ハサベツシテサビ[illegible]ガシタワイ　人ノヨヌコヲ人目ガ

カレルトキヂヤガ今ヤデハタヽ〳〵足ヲ人目モカレル　草モ枯ルニヨツテサ

カヲヌト思ヘバ[illegible]ヌ[illegible]ヌ[illegible]ヌ[illegible]

[illegible]

大空ノ月ハ[illegible]ハ新[illegible]

○昨夜ノソラノ月ガキツウサエタニヨツテソノ新ノ足ヲ水ガサケハ足アノ

ヤウニヅバンニコホツタワイ　○よみ人しらず　秋霧ニ[illegible]

夕さればかぜ[illegible]

○ヤゴロハ　ユラカタニナレバイカウ[illegible]イ　一ツ著ニヤナラヌ　コレハモウ

吉野山ハ雪ガフツタサウナ

いよりハ[illegible]

○コレカラハツヾイテ降〳〵フレカシ コチノ庭ノスヽキヲオシナビカシテ
ツモウタアノ雪ノケシキ キツウオモシロイ

ゆく春をかなしみぞ思ひしらるゝ きの山れいつせきゝ

○山ハ雪ガフルヤウスヂヤガ フルウチニ ハヤ片方カラサキエルサウナソノ
雪ドケト見エテ アノ山カラ流レ落ル川ノ水ガ、シテ ヨガアレ高ウナツタウ
ヒ川ホウ水ガ、ヒ ヒ〳〵 山の春をれ名ぞ今面さらしし

○此川ハ紅葉ガ流レルコヽデハ流レテコナヽガ 五のいま 今アノヤウニ流レテキタノハ川上
ノ奥山ノ春ドケデ水ガ増タサウナツデ川上ニヨドデアツタ木葉ガ今流テクルヂヤ

春ちらし〳〵ぞ〳〵ちらるれば 山もみ春ふ〳〵日もそゝ〳〵

○ひ吉セノ里ハ高山ガ近イニヨツテ ケガナ一日モ雪ノフラヌ日ト云ハナイ

○コナノ庭ハ イチメンニ春ガツモツタヤウデ道モナイ ツミ余テ庭子テクル人
ガナイヂヤニヨツテサ 色ツテクル人ガアラウナラセメテ庭ハシレテアラウニ

冬の雪〳〵てしらめる 紀貫之

春ゆきとバみてごりをる春あり ふ〳〵れぬるぞさらにる

○冬ガレデヤダメモデヌ草モ木モ 春ガフレバ 春ニハサタナノ花ガサ
イタワイ ソウタイ花ハ春ニナツテ 咲クモノヂヤニ

志ガ花山ぞえ少てしらめる きのうきみ〇

白雪ぞとの降もかはらじ春ちるけばいとゞやゆきさくぞとてそれ

○春ガドコトニナニタヒラ一メンニツモツタレバ 木デハナウテ花ノサクヤウイ岩

ヘモサ花ガ咲タト云エル。十枝云志賀の山ごえハ花の名どころなれバ。
その花のことを思ひてよらるるなり。

なほ雪ふまぬ高ふまれもとりなるとよやこれりきるとも
ろもとしよそ人ハ　恢上ノ歌ノこと

みよしの山ハ花ざかりにて雪ハ白雲をまがへまがふるなり

○今夜ハ吉野山ノ雪ガイカウツモルサウナ　ソレデ世ヘンニデガコノヤウニダンダンサムサガマサルデヤ

雪ハ雪ハきさいの雪ハ今の今　ぬぎ捨てはあきうぜ

浦ちかくゆりくる雪ハ花ざかり　沖の末乃ハ山ぞかすみる

○カノ奥州ノ末ノ松山ト云所ハ古今二浪モコエナントヨンデアッテ名ノ
ライ一デヤガ　今カウ海ヲ近イ所ニ雪ノフッテクルケシキハ白イ浪ガマコ

トニソノ末ノ松山ヲサコエルノカト云エル　俤材ハ初句を末の松山乃

あだ浪の浦〳〵こえてかや　むがらこしぬ浦ハ浦〳〵ふまれぬの浦

壬生忠岑

みよしの山の白雪ゆきふるていつもの人のおもひつもるか

○吉野山ハ原イ雪ヲフミ分テコモツタ人ガ来ル後一向ニオトヅレモナイガ
雪ガ降〳〵フカウナッテ使リモシラレヌ一カ　イヨ〳〵ヒマナカ　来ル気ノ
ツヨイ所ナレバモシワウラハレナドハセヌカ　アンジラル、ワイ

ふる雪のあるてはかもまつ山里ハとゝむ人とゝやとひきゆ〳〵し

○雪ノフッテ降〳〵フカウツモッタ山里ハサゾヤ　ヲウハアラウ　サビシウハア
ラウシ　サウ云所デハ住テ居ル人ハデガ心ノキエイルヤウニ思フデカナアラウ。

雪ハシテイヲ消ルモノヂヤガソノ雪ノヤウニサ心デガ

吉野ヤ[illegible]ヤ[illegible]ヤ[illegible]

紅葉

よみ人しらず

雪ぬぎうゝふ又もふりぬとて花とあちるはみなまれなりそ

○此雪ハ一ダキエヌウ〳〵ヒ又ヅイテフリカサナレ オツヽケ花ガキテ花ノタツ時分ニナウタナラフ マレニヨウフリモセウケレ 花〳〵ハ見ラレマイホドニ

梅の花とゝとゝ見ぬ〳〵ぞむさかりあるときゝちのらべてぬまてば

○三 あるぎ〳〵 雪ガオシナメテドコモカモ フツタレバ 梅ノ花ガ梅ノ花トモ見エヌ 同シ白サヂヤニヨツテ

此ゝろハうゝ〳〵けいとくかきの本人ゝ見ぬ〳〵ぞ思ひ

梅の花ふ雪の梅とよるゝ 小野ゝあるむしの紅花

紅の色ハ雪ふまぬ〳〵ぞとゝ色とぞふ〳〵但人ゝ見ぬべく

○花ノ色ハ雪ニマジツテ ソレト分レテ見エズ 人ガ梅ノ花ギヤトミルヤウニ

せメテ香ナリトモ ハツキリトシレヤウニ ニホヘ

雪のうちに梅の花とよるゝ きのはゝ四紀

梅の香の匂ひ分ル雪ふまぬ〳〵ひさかれる雪〳〵ぞ

○梅花ハ色ハ白ウテ雪ニマガウガ モシ香ヤデガ 色ノヤウニツモツタ雪テ

下ガウナラバ 誰ガ雪ト梅花トヲヨウベツ〳〵ニ人分テ折ウヅイ タレモ

エ人分ケハスマイ 香カマガハ子バコヲ

雪ふりぬ〳〵成よるゝ 紀とゝのつ

雪ふまぬ〳〵ぞ紅ぞ咲よ雪〳〵いづれ紅梅〳〵和きて〳〵西し

○雪ガフレバ 何ノ木モミナ花ノサイタヤウナワイ ドレヲ梅ギヤト人分テ

ヲラウヅ　ドウモヌケニクイ

ヨヽ人　イタ人ヲ　ヨヽ人ヲ　みつる

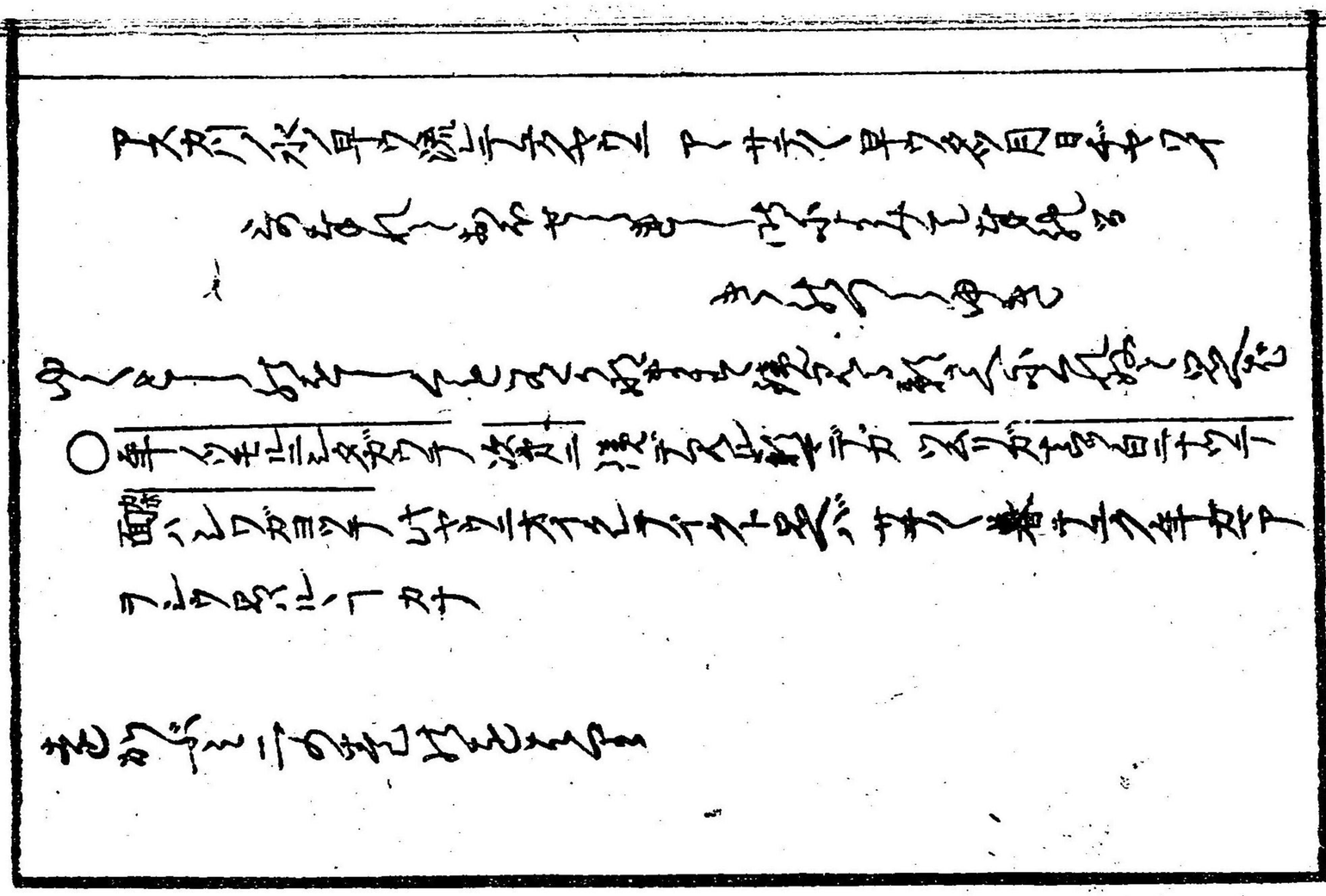
○コチガヽ千モセヌ来年ノ年ハモウ近ウキタケレド　今ジブンノ年ノヤウニ

カレテヨリヽイシダ人ハ　コチガコレホド待ツノニ　マダカヘツテコヌノミナラズ　子カラ

オトヅレモセヌ　カレルトキハヨリヽイテヨリツカヌヤウニギヤウイ

ヒヽ　ヒヽ　ヒヽ　あるヒヽのもやかる

○二年ノ年ノ年リニナルタビゴトニ　書モフリヽサルガ　コチガ身モ老ヽフルサガマ

サツテヤリ　次第ニ年ガヨツテイクヽ　アヽコヽヅタモノヂヤ

寒ヒ時ヒ　ヒヽ　ヒヽ　ヒヽ